

令和2年度事業報告

令和2年 4月 1日から

令和3年 3月31日まで



公益財団法人

阿蘇地域振興デザインセンター

ASO DESIGN CENTER

I. 概 要

令和2年度は、4年前の熊本地震により多大な被害が生じたJR豊肥本線や主要国道などの復旧・復興が進むことから、影響の大きかった観光業や飲食業を始めとした地域産業の支援を目的に「ASO Recovery」（阿蘇復興）を活動のテーマとして事業をスタートさせました。

しかしながら、前年末から発生した新型コロナウイルスの世界的なパンデミックのため、観光振興面では訪日外国人客の大幅な減少により、国内客をターゲットとした取り組みが主流となりました。また、観光地域づくり法人（DMO）として、全国観光圏関係や観光庁の研修会、各種会議などに例年参加していましたが、リアルからリモートへの対応に追われた年度でありました。そのような中で、国際的な観光見本市である「ツーリズムEXPOジャパン2020 旅の祭典 in 沖縄」に出展し、阿蘇くじゅう観光圏としてPRに努めました。

地域振興関係では、コロナ感染対応策として、地域元気再生支援事業の増額補正を行い、市町村のコロナ対応の動きをフォローしました。加えて、阿蘇復興のシンボルイベントとして計画していましたが「ASO ロゲイニング2020 in 阿蘇」は、規模縮小して開催することが出来ました。

コロナ禍において、デジタルトランスフォーメーションが一気に進んだことで、情報発信におけるツールが紙媒体からSNSや動画へと進化したことにより、YouTube配信による「新阿蘇紀行シリーズ」を企画し、総再生回数も2万回近くに及んだほか、好評を受けて中部国際空港でもその一部を放映する機会を得ました。

当財団では、このWithコロナに対応すべく、サクラマチクマモトなどの最新鋭のデジタルサイネージの活用や「繋がる阿蘇」をテーマに開催したInstagramによるフォトコンテストなどを実施し、時代に呼応した取り組みに挑戦した一年であったと言えます。

また、事業を遂行するための基本財産運用益におきましては、米中関係の悪化などが影響し低迷が続いていましたが、コロナ禍に対応するための世界的な公的資金の投入により株価が上昇し、その影響もあって年度後半からは運用益が好転しました。

コロナ禍という想定外の事態発生にもかかわらず、事業執行率は9割を越すことが出来ました。一方、会議や研修会がリモートに変わったことにより、出張費や旅費などに余剰が生じ、収支バランスは黒字となり、公益財団としての決算としては、来年度以降に課題を残しました。

Ⅱ. 評議員会・理事会・幹事会の開催について

1. 評議員会

法律並びに定款に定められた重要な事項を決定する評議員会を3回開催しました。

・第1回評議員会（書面決議）

- ①決議日 令和2年4月16日（木）
- ②同意事項
 - 1) 議案第1号 理事の選任（案）について
 - 2) 議案第2号 議案第1号の提案を可決する旨の評議員会の決議があったとみなされる日は、令和2年4月16日とすることについて

・第2回評議員会

- ①開催日 令和2年6月19日（金）
- ②場 所 熊本県庁 行政棟本館13階 展望会議室
- ③報告事項 報告第1号 令和元年度事業報告について
- ④審議事項 議案第1号 令和元年度貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の承認について

・第3回評議員会（書面決議）

- ①決議日 令和2年9月11日（金）
- ②同意事項
 - 1) 議案第1号 理事の選任（案）について
 - 2) 議案第2号 議案第1号の提案を可決する旨の評議員会の決議があったとみなされる日は、令和2年9月11日とすることについて

2. 理事会

当財団の運営に関する事項を決議する理事会を4回開催しました。

・第1回理事会（書面決議）

- ①決議日 令和2年4月8日（水）
- ②同意事項 1) 議案第1号 令和2年度第1回評議員会の開催について
2) 議案第1号の提案を可決する旨の理事会の決議があったとみなされる日は、令和2年4月8日とすることについて

・第2回理事会

- ①開催日 令和2年5月29日（金）
- ②場 所 阿蘇草原保全活動センター 草原学習館 会議室
- ③報告事項 報告第1号 異動に伴う理事の就任について
- ④審議事項 議案第1号 令和元年度事業報告について
議案第2号 令和元年度会計決算報告及び監査報告について
議案第3号 「阿蘇地域元気再生支援事業実施要綱」の一部改正について
議案第4号 令和2年度第1回会計補正予算について
議案第5号 令和2年度第2回評議員会の開催について

・第3回理事会（書面決議）

- ①決議日 令和2年9月3日（木）
- ②同意事項 1) 議案第1号 令和2年度第3回評議員会の開催について
2) 議案第2号 議案第1号の提案を可決する旨の理事会の決議があったとみなされる日は、令和2年9月3日とすることについて

・第4回理事会

- ①開催日 令和2年12月4日（金）
- ②場 所 大阿蘇環境センター未来館 2階研修室
- ③報告事項 報告第1号 令和2年度上期事業進捗状況について

・第5回理事会

- ①開催日 令和3年3月24日(水)
- ②場所 阿蘇市農村環境改善センター 農事研修室
- ③審議事項 議案第1号 令和2年度第2回会計補正予算について
議案第2号 令和3年度事業計画について
議案第3号 令和3年度会計予算について

3. 幹事会

阿蘇DCの事業運営に関する事項を協議し、意見を具申する幹事会を3回開催しました。

・第1回幹事会

- ①開催日 令和2年5月20日(水)
- ②場所 阿蘇草原保全活動センター 草原学習館 会議室
- ③協議事項 1) 令和元年度事業報告について
2) 令和元年度会計決算報告について
3) 「新型コロナウイルス感染症」対策事業について
- ④報告事項 1) 異動に伴う理事の就退任について

・第2回幹事会

- ①開催日 令和2年11月13日(金)
- ②場所 阿蘇草原保全活動センター 草原学習館 会議室
- ③協議事項 協議第1号 令和2年度上半期事業進捗状況の報告について

・第3回幹事会

- ①開催日 令和3年3月3日(水)
- ②場所 熊本県阿蘇総合庁舎 2階 大会議室
- ③協議事項 1) 令和2年度第2回会計補正予算について
2) 令和3年度事業計画について
3) 令和3年度会計予算について

Ⅲ. 事業報告

公益財団法人 阿蘇地域振興デザインセンター（以下、阿蘇DC）の中期計画に基づく令和2年度の事業実施状況は次のとおりです。

（単位：円）

事業番号	事業の内容	個別事業	事業費
公益目的事業1 （取り組み②）	豊かな自然による 世界ブランドの確立 ～阿蘇草原の 維持・再生～	ア 草原再生PR事業	4,512,718
		イ 野焼き支援事業	1,506,714
		ウ 阿蘇産品の振興	1,820,973
		エ 世界ブランド事業の推進	10,012,476
公益目的事業2 （取り組み①）	地域の元気再生による 地域力向上	ア 地域元気再生支援事業	7,613,000
		イ 的確な情報の発信	1,655,506
		ウ 阿蘇回帰運動への取り組み	957,240
		エ 人材育成事業	1,147,350
公益目的事業3 （取り組み③）	広域連携による 競争力のある 観光地づくり	ア 新たな阿蘇資産の構築・推進	4,438,161
		イ 広域連動型観光まちづくり （補助事業）	10,793,122
		（自主事業）	3,917,675
事業費総計（人件費を除く）			48,374,935

《公益目的事業1

豊かな自然による世界ブランドの確立～阿蘇草原の維持・再生～》（取り組み②）

阿蘇DCの中期5か年計画（平成29年度～令和3年度）に則り、安定的な財源を確保し恒久的な草原の保全を目的として、平成27年度に創設された「阿蘇草原保全支援システム」への支援を継続しました。具体的には、「阿蘇草原保全支援システム」の県市町村負担金1,200万円の50%に当たる600万円を、構成8市町村分として負担いたしました。

令和2年度は、草原環境・体験事業の一環として、「草原ボランティアリズム」や「地元小学生の草原環境・体験学習」、普及・啓発事業としてシンポジウム・講演会及び西日本新聞紙上における紙上座談会の企画に係る事業等を行い、草原再生PRや野焼き支援を行い、草原の維持・再生を推進しました。

また、草原や火山と共に生きる人々の暮らしぶりから生まれた景観保全や固有の食文化の魅力を発信し、交流人口や関係人口を増やすために関係団体と連携し、阿蘇産品の振興を図ることを目的に事業を展開しました。

【 ア 草原再生PR事業 】

事業内容	<u>1. 阿蘇草原保全支援システムへ負担金支援</u>	
	草原景観維持の施策を地域統合的に検討実施する目的で熊本県主導のもとに立ち上げた「阿蘇草原保全支援システム」へ阿蘇DCの事業を付託しました。	
決算額	【総額】 4,512,718 円	
	① 阿蘇草原保全支援システム（支払負担金）	4,500,000 円
	② 事務経費（旅費交通費）	12,718 円

【 イ 野焼き支援事業 】

事業内容	<u>1. 阿蘇草原保全支援システムへ負担金支援</u>	
	草原景観維持の施策を地域統合的に検討実施する目的で熊本県主導のもとに立ち上げた「阿蘇草原保全支援システム」へ阿蘇DCの事業を付託しました。	
決算額	【総額】 1,506,714 円	
	① 阿蘇草原保全支援システム（支払負担金）	1,500,000 円
	② 事務経費（旅費交通費）	6,714 円

【 ウ 阿蘇産品の振興 】

事業内容	<u>1. 阿蘇の花の回廊づくり構築・推進</u>	
	<p>令和2年度も引き続き、阿蘇産品の振興と「復興・復旧」の景観づくりを目的に、『あそフラワーツーリズム（あそ花旅 春編・秋編）』を実施しました。</p> <p>地域住民や児童の協力により、各地の観光施設等へチューリップの植栽を行いました。</p> <p>同時に、インスタグラムによる『あそ花旅フォト</p>	
		

	<p>コン』キャンペーンを行い、阿蘇エリアの1,000点近い写真が寄せられ、SNSを活用した交流及び関係人口増加の一助となりました。また、優秀賞を設け阿蘇産品プレゼントを行い、優秀作品の展示会も管内4か所において春秋2回開催し、近隣周遊観光を創出しました。</p> <p><u>2. 阿蘇の食文化の情報発信</u></p> <p>阿蘇地域の固有の農産品や食材（阿蘇地域世界農業遺産等）を使用した食文化の魅力を発信すると共に、食を通じた関係人口を創出するキャンペーンの取り組みとして『阿蘇の食卓（阿蘇地域世界農業遺産特別編集号）』を、阿蘇地域世界農業遺産推進協会と連携して行いました。</p> <p>また、阿蘇地域世界農業遺産を巡る「阿蘇フットパス」の情報発信も併せて実施しました。</p> <p>発行部数：3,000部</p>						
<p>決算額</p>	<p>【総額】1,820,973円</p> <table border="0"> <tr> <td>① 阿蘇の花の回廊づくり構築・推進</td> <td>646,788円</td> </tr> <tr> <td>② 阿蘇の食文化の情報発信</td> <td>1,126,400円</td> </tr> <tr> <td>③ 事務経費（旅費交通費）</td> <td>47,785円</td> </tr> </table>	① 阿蘇の花の回廊づくり構築・推進	646,788円	② 阿蘇の食文化の情報発信	1,126,400円	③ 事務経費（旅費交通費）	47,785円
① 阿蘇の花の回廊づくり構築・推進	646,788円						
② 阿蘇の食文化の情報発信	1,126,400円						
③ 事務経費（旅費交通費）	47,785円						



阿蘇の食卓（冊子）

【エ 世界ブランド事業の推進】

<p>事業内容</p>	<p><u>1. 阿蘇ジオパーク推進協議会へ負担金支援</u></p> <p>阿蘇の火山や地形地質をテーマにしたジオパーク活動や景観保全、地域住民の意識向上や誇りの醸成に繋がる活動のために、「阿蘇ジオパーク推進協議会」（事務局：阿蘇火山博物館 内）へ負担金支援を行いました。阿蘇ジオパーク推進協議会は「文化観光推進事業」採択に伴い、将来に向けて文化の振興を観光振興と地域の活性化事業の推進を図ることになりました。また、「今後の阿蘇ジオパークのあるべき姿（ASビジョン）」について論議し、それを元に「阿蘇ジオパーク基本計画」（環境省直轄事業）策定に取り組みました。</p>
-------------	---



阿蘇火山博物館

	令和2年度の主な事業は、①資料や情報の収集保存、②調査研究、③ジオサイトの保全・整備、④教育・普及活動、⑤情報発信、⑥ネットワーク活動の推進、⑦ジオツーリズムの促進です。	
	【総額】 10,012,476 円	
決算額	① 阿蘇ジオパーク推進協議会(支払負担金)	10,000,000 円
	② 事務経費(旅費交通費)	12,476 円

《公益目的事業2 地域の元気再生による地域力向上》(取り組み①)

平成28年4月に発生した熊本地震からの復興・復旧作業が懸命に進められ、令和2年度においては、8月8日にJR豊肥本線、10月3日に国道57号線、そして令和3年3月7日に新阿蘇大橋が開通し、阿蘇へのアクセスが整備されました。

しかしながら、令和元年度に発生した新型コロナウイルス感染症の猛威は全世界に及び、わが国においても緊急事態宣言の発出により、経済活動に多大な影響を被りました。特に阿蘇地域においては主要産業である観光業を始め商工業など多方面に及んでいます。

その一助にと、『令和2年度阿蘇地域元気再生支援事業』の助成額を増額(33%増)し、特に新型コロナウイルス感染症対応策として活用しました。

的確な情報発信については、サーバー利用料などを見直し、経費の削減に努めました。コロナ禍ということもあり、応援歌『ASO エール』を企画し、地震を経て復旧・復興する阿蘇地域への再来訪になるような取り組みとして「音楽」による情報発信を行いました。

また、阿蘇回帰運動については、新型コロナウイルスにより緊急事態宣言が発出されたことで、特に首都圏における移住定住相談会が中止となりましたが、昨年度に引き続き、ファミリー層の多い福岡市橋本地区の木の葉モールで、移住定住の調査を主体に実施しました。

人材育成事業では、With コロナ、After コロナを見据えた地域づくりを念頭に、地域づくりセミナーやシンポジウム実施しました。

【 ア 地域元気再生支援事業 】

1. 令和2年度阿蘇地域元気再生支援事業

地域の元気再生による地域力向上をめざし、地域の自然、文化、歴史、産業、生活習慣等の特性を地域資源として発見、活用し、魅力ある地域づくりと地域の活性化を図ることを目的とした取り組みに対し助成を行いました。

平成28年4月熊本地震発災以降は、「地域の元気を取り戻すための復興に関する事業」について助成を行っています。また、令和2年度は、新型コロナウイルスのパンデミックにより多大な影響を受けた分野への支援も条件に、助成額を増額補正しました。

・上限 75万円 ⇒ (増額補正後) 100万円

・助成対象経費の 60%以下 ⇒ (増額補正後) 2/3以下

【助成事業数 11件 ※】

①阿蘇市古代の里キャンプ村満足度向上事業 (阿蘇市手野きよら会)

②分散型湯あかりの環境整備及び林業コンテンツの造成事業

(南小国町観光協会)

③木魂館キャンプ場コロナ対策事業 (小国町 (一財) 学びやの里)

④池山水源ライトアップ事業 (産山村観光協会)

⑤うぶやまボタニカルワークショップ事業 (産山村+botanicai)

⑥南阿蘇地域観光誘客キャンペーン

(高森町&南阿蘇村 (一社) みなみあそ観光局)

⑦南阿蘇・高森・西原マルシェ (西原村商工会)

⑧宮山神社再建事業 (西原村宮山神社再建委員会)

⑨蘇陽峡もみじ祭 (山都町 蘇陽峡もみじ祭実行委員会)

⑩そよ風パークレストランリニューアル事業

(山都町 株式会社エネルギープロダクト)

※ 新型コロナ感染拡大防止のため開催中止 1件

馬見原落語会 (山都町馬見原街づくり協議会)

事業内容



産山村



阿蘇市



西原村

	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>小国町</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>南小国町</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>高森町・南阿蘇村</p> </div> </div>
決算額	<p>【総額】 7,613,000 円</p> <hr/> <p>① 阿蘇地域元気再生支援事業助成金 7,613,000 円</p>

【イ 的確な情報の発信】

事業内容	<p>1. <u>観光情報ポータルサイト「阿蘇ナビ」と関連コンテンツの管理・運営・保守</u></p> <p>阿蘇地域全体の様々な情報を一体的に発信することを目的とした観光情報ポータルサイト『阿蘇ナビ』の運営を行いました。 令和2年度は保守管理などを見直し、経費の削減に努めました。引き続き見直しと情報の更新を行います。</p> <p>『阿蘇ナビ』の URL http://aso-navi.com/ja/top/</p> <p>2. <u>阿蘇DCホームページの管理・運営・保守</u></p> <p>当財団ホームページの管理・運営・保守を行いました。紙媒体のパンフレット配布と並行して、ホームページからも閲覧できるように更新を行いました。</p> <p style="text-align: right;">ページビュー HP閲覧数：(令和元年度) 13,483 P V ページビュー (令和2年度) 14,184 P V</p>
------	---

3. 地域住民に身近な情報媒体での情報発信

令和2年度は熊本地震から5年目にあたり、JR豊肥本線・国道57号線の現道及び北側復旧ルート、新阿蘇大橋開通というメモリアルイヤーに当たったことから、3種の記念ポスター(※4)を作成し、各所に配布しました。

同時に近隣からの誘客とアフターコロナ後の旅の動機付けを目的に、動画『新阿蘇紀行』(87本)(※5)を制作しYouTubeで配信し、映像の一部は、中部国際空港でも放映されました。なお、令和2年度末で総再生回数20,000回に近づいています。

また、NHK連続テレビ小説「エール」放映に因み、阿蘇地域応援歌『ASOエール』(※6)を企画し、復旧・復興する阿蘇地域への再来訪の取り組みとして「音楽」による情報発信を行いました。

4. 情報誌の制作

阿蘇DCの事業内容を掲載した阿蘇の人のための情報誌『aso lulu』第21号を発行しました。

発行部数：2,500部 ※

※当財団HPからも閲覧いただけます

(http://www.asodc.or.jp/library/data_asolulu/asolulu21.pdf)

(添付資料7)



aso lulu vol.21

5. 大学・企業との連携

コロナ禍における飲食業支援プロジェクトとして、熊本大学 Kumarism (くまりずむ) と連携して「#阿蘇エール飯」の告知チラシ作成やSNSでの周知を行いました。



Kumarism のホームページ

(<https://kumarism.jp/asoyellmeshi/>)

#阿蘇エール飯

	【総額】 1,655,506 円
決算額	① 「阿蘇ナビ」及び関連コンテンツの管理・運営・保守 243,468 円 ② 当財団ホームページ管理・運営・保守 150,700 円 ③ 地域住民に身近な情報媒体での情報発信 742,588 円 ④ 情報誌の制作 508,750 円 ⑤ 大学・企業との連携 10,000 円

【 ウ 阿蘇回帰運動への取り組み 】

事業内容	<p><u>1. ふるさと回帰フェア出展及び相談会の開催</u></p> <p>新型コロナウイルス感染症蔓延による緊急事態宣言により、東京交通会館 12 階 ダイヤモンドホールにて開催のふるさと回帰フェアが中止となりました。</p> <p>このため、管内の道の駅において、移住・定住に関する聞き取り調査、ミニ相談会を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場所：道の駅小国ゆうステーション（10月8日） <li style="padding-left: 40px;">あそ望の郷くぎの（10月13日） <p><u>2. 福岡都市圏における移住・定住キャンペーン</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・『第2回 ASO へ行こう！ASO に住もう！フェア』 <p>昨年度の「移住・定住に係るターゲット絞り込み調査」に基づき、福岡市西区の「木の葉モール橋本」にて開催。</p> <p>移住・定住相談会は、コロナ禍で縮小となり、阿蘇地域への観光 PR 主体に変更しました。アンケート調査（聞き取りは禁止）では、テレワーク移住の可能性があることが実感出来ました。</p> <p>なお、9月9日（水）に、移住・定住相談会担当者事前会議を開催。市町村担当者も当日参加予定でしたが、コロナ禍で中止となりました。</p> <p><開催日時及び会場></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日 時：令和2年9月22日（火・祝日） <li style="padding-left: 40px;">午前10時～午後4時 ・会 場：木の葉モール橋本 1階イベントコーナー（福岡市西区）
------	---

	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>▲観光 PR を実施</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>▲移住定住相談会 (福岡市・木の葉モール橋本)</p> </div> </div>						
決算額	<p>【総額】 957, 134 円</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">①</td> <td style="width: 75%;">ふるさと回帰フェア出展及び相談会の開催 (移住・定住聞き取り調査 事務経費)</td> <td style="width: 20%; text-align: right;">12, 106 円</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>福岡都市圏における移住・定住キャンペーン</td> <td style="text-align: right;">945, 134 円</td> </tr> </table>	①	ふるさと回帰フェア出展及び相談会の開催 (移住・定住聞き取り調査 事務経費)	12, 106 円	②	福岡都市圏における移住・定住キャンペーン	945, 134 円
①	ふるさと回帰フェア出展及び相談会の開催 (移住・定住聞き取り調査 事務経費)	12, 106 円					
②	福岡都市圏における移住・定住キャンペーン	945, 134 円					

【 エ 人材育成事業 】

事業内容	<p><u>1. 地域づくりセミナーやシンポジウムの開催</u></p> <p>・『ASO キックオフミーティング 2020 After 熊本地震 With コロナの阿蘇を考える！』</p> <p>令和2年8月21日、『ASO キックオフミーティング 2020』を国立阿蘇青少年交流の家で開催。新型コロナウイルス感染拡大防止策としてオンライン配信も併用。After 熊本地震 With コロナの阿蘇における地域づくりに関して、話題提供者3名を中心に講演会を開催。</p> <p>講演後には「ASOの素敵な未来のためにあったらよいモノ・コト」をテーマにワークショップを開き、それぞれのグループごとに「阿蘇の未来」について語り合いました。</p> <p>＜開催日時及び会場＞ 日 時：令和2年8月21日（金） 午後1時～午後5時 会 場：国立阿蘇青少年交流の家 参加者：45名（Web参加者7名）</p> <div style="text-align: right;">  <p>ワークショップ</p> </div>
------	--

2. 第1回 地域づくり研修会

「新型コロナウイルスを乗り越える 地域づくり再考！」

まちづくりや地域経営・経済についての著書や講師として、また由布院や愛媛県内子町などを始め多くの過疎市町村の総合計画などに長年携わって来られた法政大学名誉教授の岡崎昌之先生をお迎えし「コロナで大きく変貌した社会や人々の動きを見据えて、これからの地域づくりのあるべき姿」についてご講演頂きました。

<開催日時及び会場>

講 師：岡崎昌之 法政大学名誉教授

演 題：「新型コロナウイルスを乗り越える 地域づくり再考！」

日 時：令和2年12月18日（金）

午後1時～午後4時

場 所：阿蘇市農村環境改善センター

参加者：34名（Web参加者15名）



告知フライヤー



岡崎昌之先生



研修会風景

【総額】 1,147,350 円

決算額

① ASO キックオフミーティング 2020	256,394 円
② 第1回地域づくり研修会	125,036 円
③ セミナー配信用機材	410,520 円
④ セミナー報告書作成	355,400 円

《公益目的事業3 広域連携による競争力のある観光地づくり》

(取り組み③)

(ア) 新たな阿蘇資産の構築・推進

令和2年度においては、熊本県が進める『「歩き」による地域活性化～Walkers are Welcome』との連携を図るとともに、熊本地震からのアクセスの復興・復旧（JR豊肥本線や国道57号線現道部及び北側ルート開通、新阿蘇大橋開通）を記念し、歩くこととスマホアプリ（包括協定を締結している株式会社ヤマップの登山アプリ）の組み合わせをベースに、地域の宝物（景観・史跡・自然）や飲食・宿泊業及び二次交通などと連動した阿蘇地域らしい取り組みとして『ASO ロゲイニング 2020 in 阿蘇』を開催しました。

また、阿蘇グリーンツーリズム協議会、阿蘇エコツーリズム協会とへの支援及び阿蘇山上ビジターセンター運営協議会への参画や、(公社)熊本県観光連盟の活動（事務局長会議や視察研修）に出席しました。

なお、観光PRイベントなどは、コロナ禍により中止となりました。

Undiscovered Aso ランキング Web サイト制作（阿蘇地域インスタグラムハッシュタグガイド Web サイト制作に事業名を変更）については、外国人が検索しにくいインスタグラムの日本語ハッシュタグを紹介する Web サイト（日本語・英語版）を構築しました。

阿蘇地域復興・復興記念インスタグラム選手権については「つながる阿蘇」をトータルテーマとして「JR豊肥本線/#つながる阿蘇」「国道57号線関連/#つながるトンネル」のふたつの事業をフォトコンテストとして展開。写真の応募総数が1,494点にのぼり、プロの写真家による審査を経て、優秀作品等の展覧会を各地で開催し、コロナ禍における域内周遊観光の誘客を図りました。

ASO ロゲイニング大会 2020 in 阿蘇



スタート&ゴール（はな阿蘇美）



熊日新聞の掲載記事

(イ) 広域連動型観光まちづくり

観光地域づくり法人であるDMOなどを対象にした国土交通省（観光庁）「広域周遊観光促進のための新たな観光地域支援事業」に申請し、全国観光圏推進協議会加盟の13の観光圏との連携事業や、訪日外国人向けの「Aso Kuju Free Wi-Fi MAP」の作成やツーリストマップ（英語）のエリア拡大版の作成に加えて阿蘇市等申請事業や国の直轄事業2件を地域連携DMOとしてアシストしました。

令和2年度、当財団は重点支援DMO（32法人）に認定されたことから、観光庁主催の実地研修（熊野古道研修）に、事務局員2名が参加しました。

九州3観光圏に関しては、インバウンド広域周遊商品化に取り組む一方、予定されていた東京オリ・パラ関係の商談会がコロナ禍により中止となりました。

また、全国観光圏推進協議会と連携して、阿蘇くじゅう観光圏マーケティング調査や「Undiscovered Japan」情報発信事業等及び観光品質認証制度「SAKURA QUALITY」（サクラクオリティ）などの事業を継続しました。

中九州DMO連携事業に関しては、コロナ禍で、会合は中止となり事業は次年度へ繰り越すことになりました。

阿蘇くじゅう高千穂デザイン会議に関しては、観光圏HPの管理・運営および総会（7月）を開催しました。また、事務局として、3回の観光地域づくりマネージャー育成研修を行いました。（注）コロナ禍によりリモートで開催）

さらに、阿蘇くじゅう観光圏として「ツーリズムEXPOジャパン2020旅の祭典 in 沖縄」に出展しました。

コロナ感染に関しては、独自の事業として補正予算を組み3事業を実施しました。



ツーリズム EXPO ジャパン 2020



重点支援 DMO 熊野古道研修

【 ア 新たな阿蘇資産の構築・推進 】

事業内容	<p>1. <u>阿蘇地域における持続可能な歩くことの文化化を図り、地域活性化に繋げる</u></p> <p><u>『ASO ロゲイニング 2020 in 阿蘇』の開催</u></p> <p>日時：令和2年12月5日（土）9時30分～17時 スタート・ゴール：はな阿蘇美（阿蘇市小里） 参加者数：88名 共催：YAMAP</p> <p>阿蘇市の「はな阿蘇美」をスタート・ゴールに、内牧温泉街や門前町商店街や阿蘇山上、阿蘇神社などの神社仏閣そして飲食店や旅館など阿蘇市内104の定められたチェックポイントを、決められた時間内で数多くのポイントを巡って、ゴールを目指すというゲーム性に加え、さらに1,500円のクーポンを配布し、飲食や土産物を購入することで、復興を支援する仕組みも導入。歩きを基本に自然や景観を楽しみながら、飲食や二次交通利用などによる地域住民との交流の機会の創出も設定しました。</p> <p>ロゲイニング大会の様子の写真を集めたフォトコンテストも実施し、優秀な作品には阿蘇地域の特産品を贈呈しました。</p> <p>実証実験的に開催した「令和元年度ASOロゲイニング大会 in 西原村」をベースに、阿蘇地域復興記念イベントとして企画しましたが、コロナ禍でもあることから当初の計画より参加人数もチェックポイント数も縮小しての開催となりました。なお、今後の持続性を図るために、地元商工会の協力も得たことが特に注記したい点です。</p> <p>2. <u>阿蘇エコツーリズム協会の運営・支援</u></p> <p>阿蘇エコツーリズム協会と連携し「阿蘇西国三十三か所霊場巡り」の商品化の支援を行いました。</p> <p>3. <u>阿蘇グリーンツーリズム協議会の支援</u></p> <p>先進地調査として長崎県小値賀町の古民家を活用した民泊視察を実施。その調査事業の支援を行いました。</p>
------	---

4. 阿蘇山上ビジターセンター運営協議会負担金支援

平成 31 年に開設された「阿蘇山上ビジターセンター運営協議会」にオブザーバーとして参加しました。

5. 公益社団法人熊本県観光連盟への参画

熊本県観光連盟が主催する「事務局長会議」に参加。県下の観光協会と情報共有を図りました。

※新型コロナウイルス感染拡大により、今年度の負担金支払は免除となりました。

6. 『訪日外国人向けインスタグラム

日本語ハッシュタグガイドWebサイト制作』※

※「Undiscovered Aso ランキングWebサイト制作」から事業名を変更

年々、外国人旅行者が『インスタグラム』を利用して人気スポットを検索することが多くなっていますが、日本語で投稿されたハッシュタグ（「#」を付けて投稿するもの）を外国人が検索することは難しい現状があります。また、同じスポットのハッシュタグでも、文字の表記が少し異なるだけで検索されない場合があります。

例) 外国人の検索 #Mt. Aso ⇒ #阿蘇山 へ誘導。

このような、外国人が検索しにくいインスタグラムの日本語ハッシュタグを、外国人向けに紹介するWebサイトを構築し、阿蘇地域の観光スポットの紹介を行うことを目的に制作しました。

『阿蘇地域インスタグラム ハッシュタグガイド』の URL

<http://hashtagsearch.aso-navi.com/>

7. 阿蘇地域復旧・復興インスタグラムフォトコンテスト

「#つながる阿蘇」をテーマに、インスタグラムを活用したフォトコンテストを開催し、新たな阿蘇の魅力の発信や普及啓発を行いました。

また、プロの写真家による審査により優秀作品等を選び、作品の展覧

会を開催し、コロナ禍における域内周遊観光の誘客を図りました。

<開催期間>

#つながる阿蘇（令和2年8月8日～10月11日）

#つながるトンネル（令和2年9月27日～11月29日）

優秀作品



#つながる阿蘇



#つながるトンネル

6. 各種観光PRイベントの参加・出展

※新型コロナウイルスの感染の影響により、各種観光イベントが中止となりました。

【総額】 4,438,161 円

決算額

- | | |
|--|-------------|
| ① 阿蘇地域における持続可能な歩くことの文化化
『ASO ロゲイニング 2020in 阿蘇』の開催 | 2,375,580 円 |
| ② 阿蘇エコツーリズム協会の支援（支払負担金） | 300,000 円 |
| ③ 阿蘇グリーンツーリズム協議会の支援（支払負担金） | 300,000 円 |
| ④ 阿蘇山上ビジターセンター運営協議会（支払負担金） | 100,000 円 |
| ⑤ 『訪日外国人向けインスタグラム日本語ハッシュタグガイド
Webサイト制作』 | 539,000 円 |
| ⑥ 『阿蘇地域復旧・復興インスタグラムフォトコンテスト』 | 615,779 円 |
| ⑦ 事務経費（旅費交通費他） | 207,802 円 |

【 イ 広域連動型観光まちづくり 】

事業内容	<p>観光庁事業である「広域周遊観光促進のための新たな観光地域支援事業」を全国観光圏推進協議会加盟の13観光圏の共通事業として行いました。</p> <p>また、阿蘇DC事業関係としては、「Aso Kuju Free Wi-Fi MAP」の作成や熊本地震後のアクセス改善に伴う訪日外国人向けのツーリストマップ（英語版）のエリア拡大版を作成しました。（一部、豊肥振興局と連携）加えて阿蘇市等からの申請事業や国の直轄事業2件についても対応いたしました。</p> <p>1. <u>国土交通省／観光庁</u> <u>『広域周遊観光促進のための新たな観光地域支援事業』</u></p> <p>【定額補助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>阿蘇くじゅう観光圏マーケティング調査事業</u> 阿蘇地域関係市町村及び竹田市・高千穂町にある170の宿泊施設に対し同調査を留め置き形式で夏冬2回実施しました。 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大による非常事態宣言などの影響を受け、調査票回収が夏季89件、冬季が40件に例年と比較すると大幅に減少しました。（外国人ヒアリング調査は取りやめ） <p>【定率補助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>全国観光圏推進協議会共通事業</u> <ol style="list-style-type: none"> ① 全国観光圏推進協議会（5回） 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、すべてリモート形式で参加しました。 ② 観光地域づくりマネージャーレベルアップ研修(3回10名参加) 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、すべてリモート形式で受講しました。 ③ Undiscovered Japan 情報発信事業 (観光庁事業不採択のため、自主事業として実施) ④ Undiscovered Japan 周遊モデルコース造成事業
------	---

(阿蘇DC関係事業)

・「Aso Kuju Free Wi-Fi MAP」制作事業

訪日外国人から要望が多かった、阿蘇地域 8 市町村及び竹田市・高千穂町にある「Free Wi-fi」のスポットを掲載したマップを作成しました。

・阿蘇くじゅう高千穂ツーリストマップ作成 (エリア拡大・英語版)

従来から好評であったツーリストマップを、大分市及び熊本市まで含むエリア拡大版を作成しました。
(豊肥振興局と連携／日本語版作成)

(市町村関係事業)

・麓防中を歩くツアー歴史文化の旅づくり (阿蘇市)

J R阿蘇駅周辺は「麓坊中」と呼ばれ、九州最古の寺院である西願殿寺を核とした 36 坊 52 庵の歴史・文化性の高価値の高い地域であり、これらの地域資源を活かして「麓坊中を歩くツアー」を構築しました。

①モデルコースの設定

②地域通訳案内士へのガイド育成研修

③英語版のコースマップ作製・外国人モニタツアーによる検証を施しました。

・阿蘇旅を満喫するツールと環境づくり (阿蘇市)

外国人旅行者に阿蘇旅を満喫してもらうための滞在マップ等の作成及び環境づくりを実施しました。

①門前町商店街グルメマップの作成

②手野集落巡るマップの作成

③田子山トレッキングマップの作成を行いました。

※南阿蘇交通実験実証事業 (南阿蘇村) は、対象者が外国人旅行者であり、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う影響を受け申請を取り下げました。

2. 国土交通省／観光庁

「令和2年度観光振興事業（世界水準のDMO形成促進事業）」

【定額補助】

インバウンド需要を取り込むための観光地域づくりに求められる知識とノウハウを現場での実践的な手法を合わせて学ぶことで、質の高い観光地経営を目指すことを目的とした、重点支援DMO実地研修に参加しました。

日 程：令和3年3月17日～19日

研修地：和歌山県田辺市

参加者：当財団事務局員2名

2. 九州3観光圏連携事業

九州3観光圏連携によるインバウンド広域周遊の商品化を目標に掲げ共同事業などを行ってきましたが、新型コロナウイルス感染症拡大により、福岡インターナショナルギフトショーや東京オリンピック、パラリンピックからの誘客に関する事業2件が中止となりました。

なお、新型コロナウイルス感染症の収束後に、いち早く復活することが予測される台湾及び香港の現地旅行会社向けのウェビナー（オンライン）商談会を共同で開催しました。

3. 阿蘇くじゅう観光圏観光品質認証制度継続事業

宿泊施設などの観光サービスの品質を第三者が評価し、その品質の高さを認証する観光品質認証制度「SAKURA QUALITY」。質の高い観光サービス情報を発信するとともに、サービスレベルの維持向上を目的とし、令和2年度も、コロナ禍という悪条件にも関わらず、1件認定を受けました。



4. 阿蘇くじゅう高千穂デザイン会議の運営・支援

一体的な情報発信媒体となる「阿蘇くじゅう観光圏」ホームページの適切な運用を行いました。

また例年、観光庁が主催する観光地域づくりマネージャー研修会に2名の派遣を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大により、研修会が中止となりました。

アクセスの整備により改善されたルート掲載の『阿蘇くじゅう高千穂ツーリストマップ（日本語版）』の増刷を図りました。

また、「令和元年度阿蘇くじゅう観光圏マーケティング調査」の結果を踏まえた研修会を、リモートで開催しました。

観光地域づくりセミナーを、阿蘇くじゅう観光圏アドバイザーの柏木千春 流通科学大学教授をお招きして開催しました。

・令和2年度 第1回観光地域づくりセミナー

「観光地域づくりは、女性の活躍で！」

～女性の力が市場を拓く！地域を変える！～

講 師： 柏木千春 流通科学大学 人間社会学部観光学科 教授

日 時： 令和3年2月18日（金曜日）午後2時～午後5時

場 所： ホテルサンクラウン大阿蘇 1F マグノリアホール

主 催： 阿蘇くじゅう高千穂デザイン会議

協 力： （公財）阿蘇地域振興デザインセンター

参加者： 48名（Web参加者22名）



第1回観光地域づくりセミナー

柏木千春先生

・「ツーリズム EXPO ジャパン 2020 旅の祭典 in 沖縄」

令和2年10月29日から11月1日までの4日間、沖縄県宜野湾市の沖縄コンベンションセンターにおいて開催されました。今回は「阿蘇くじゅう観光圏」として出展しました。コロナ禍での開催ということもあり、入場人数の制限やイベントの縮小などもありましたが、阿蘇くじゅう観光圏の旅の情報発信に努めることが出来ました。



▲ツーリズム EXPO ジャパン 2020 旅の祭典 i n 沖縄

5. 新型コロナウイルス感染対策事業

新型コロナウイルス感染症により、観光関係に多大な影響が出始めたことを考慮して補正を組み、特に近隣からの誘客とコロナ感染予防に対する啓発を兼ねた事業を実施しました。

・サクラマチクマモト及び博多駅デジタルサイネージ活用による情報発信

福岡での緊急事態宣言解除後の令和2年3月に、「阿蘇の春」をテーマに作成した阿蘇地域の動画を、熊本と博多のデジタルサイネージを活用して発信しました。

- ・掲載期間：令和3年3月1日～31日
- ・掲載場所：サクラマチクマモト：57基
JR博多駅：2か所4基
(博多駅メインコンコース総合案内所)
(博多駅北改札口)



SAKURAMACHI Kumamoto

・阿蘇に鬼がいた！数々の鬼伝説～阿蘇鬼 MAP2021

2020年、一躍ブームを巻き起こした某人気漫画で注目を集めた「鬼」。「鬼八」伝説を始め鬼の名のつく神社や、パワースポットなどを巡るマップを作成し、コロナ禍における近隣からの誘客を促進することを目的に作成しました。

なお、SNSでも情報発信を行っています。

・発行部数：1,000部 ※

※当財団HPからも閲覧いただけます



阿蘇鬼マップ

(<http://www.asodc.or.jp/topics/index.cgi?mode=dsp&no=67>)

・四季折々の阿蘇の景色掲載、及びコロナ感染拡大防止対策カレンダー

2020年に開催した「あそ花旅」などの各フォトコンテストの入賞作品もカレンダー用写真に採用。

また、コロナ感染拡大防止対策として「新しい生活様式」を熊本弁で紹介したカレンダーを作成し配布しました。

・発行部数：1,000部



ASO CALENDAR

	【総額】 14,710,797 円	
	(国土交通省／観光庁補助事業)	
	① 「訪日外国人旅行者周遊促進事業」	10,384,337 円
	(内訳)	
	国補助分	5,408,597 円
	市町村等負担分	4,004,122 円
	阿蘇DC負担分	971,618 円
	小計	10,384,337 円
	② 「世界水準のDMO形成促進事業」	408,785 円
	(内訳)	
	国補助分	385,520 円
	阿蘇DC負担分	23,265 円
	小計	408,785 円
	(阿蘇DC自主事業、国庫補助対象外経費)	
	① 九州3観光圏連携事業	333,300 円
	② 阿蘇くじゅう観光圏観光品質認証制度継続事業	16,500 円
	③ 阿蘇くじゅう高千穂デザイン会議の運営・支援	1,000,000 円
	④ 「訪日外国人旅行者周遊促進事業」(補助対象外分)	530,977 円
	⑤ 「ASO 鬼マップ 2021」	136,400 円
	⑥ 「ASO 花旅カレンダー」	532,400 円
	⑦ 「SAKURAMACHI Kumamoto デジタルサイネージ掲載」	550,000 円
	⑧ 「博多駅デジタルサイネージ掲載」	440,000 円
	⑨ 事務経費(旅費交通費、消耗品、配送料他)	378,098 円
決算額		